

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己 評価	外部 アンケート等			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	・本校の教育活動全般について、満足している生徒・保護者を80%以上にする。 ・学校が好きだと感じる生徒を80%以上にする。	・学校行事の開催に当たり、生徒自らが協力し運営する経験を通して、自己肯定感や対人関係能力を向上させる。 ・教育の質を高めるために、新たな研修制度の周知を図るとともに、全職員が連携して取り組めるよう組織力の向上を図る。	A	A	A	・教育活動全般について、満足していると回答した生徒は90.8%、保護者は93.8%であった。 ・学校が好きと回答した生徒は88.2%であった。 ○教育活動全般において生徒の知識・技能の向上を目指し、また、主体的な活動を支援し、非認知能力の向上につなげる。 ○ICT活用を図りながら組織力の向上に努め、職員が連携して質の高い教育活動・質の高い授業づくりを一層推進する。	OSAHの指定等を受け、学外連携も積極的に行い、生徒主体の教育活動の推進を行っていた。生徒・保護者の満足度も高く効果的と考える。 OSAHや探究活動など伊勢崎高校ならではの特色ある取り組みを行っている。
	Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 ・生徒の授業満足度を80%以上にする。 ・授業等の学習活動を通じて、学力向上が実感できた生徒を80%以上にする。	・生徒の学力向上と基礎基本の定着のために、「個別最適な学び」の充実と「指導と評価の一体化」の実現に向けて、職員研修等を通して授業改善を推進する。	A	A	A	・生徒の授業満足度は90.4%であった。 ・授業等の学習活動を通じて、学力向上が実感できた生徒は82.7%であった。 ○非認知能力の育成を意識しながら、主体的に学習に取り組む態度の一層の伸長のために「指導と評価の一体化」に取り組みながら授業改善を推進する。	○「発表力」+「聴く力」から議論する力へと展開できると、より「生きる力」の育成につながる。 ○授業満足度の高さと非認知能力育成が関連がありそうに興味深い。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・「発表する力」「聴く力」が高まったと回答する生徒を80%以上とする。	・授業や探究活動において、ICT機器を活用するとともに、協働的な学びを充実させ、生徒の表現力やコミュニケーション力を高める活動を積極的に行う。	B	A	A	・授業等において発表する力が高まったと回答した生徒は82.4%であった。 ○ICT機器の活用とアウトプットの機会を増やすことで、「協働的な学び」を充実させ、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善をより一層推進する。	○読書は非常に重要。探究活動での資料の読み込みなど非常に効果的である。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 読書指導を継続的にを行い、読解力を付け、表現力を高めていますか。	・読解力が高まったと感じる生徒を70%以上にする。 ・読書への興味関心が高まったとする生徒を60%以上にする。	・「伊勢崎高校図書館蔵書検索」を活用し、図書館利用を活性化する。また学年団・各教科と連携し、「読書の記録」を活用した読書指導を継続的に行う。 ・読解力を高めるためのワークシートを定期的に配信し、様々な分野に関する要約・読解問題に取り組ませる。	B	A	A	・総合的な探究の時間などを活用した読解力や表現力の向上については、78.8%の生徒が肯定的に回答した。 ・読書への興味関心が高まったと回答した生徒は、62.4%であり、昨年度より若干減少した。 ○読解力や表現力の向上を目指して、読解力指導及び探究活動の充実を図るとともに、各教科の授業や総合的な探究の時間において、生徒が自ら考え、発表する機会を増やす。	○読書は非常に重要。探究活動での資料の読み込みなど非常に効果的である。
	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・身だしなみ違反数や自転車事故件数を昨年度以下にする。 ・学校全体のヘルメット着用率が100%にする。 ・悩み等の相談体制への満足度を80%以上にする。	・身だしなみ指導や交通安全指導など日頃から行っている指導内容について、生徒たち自身が主体的に考え、取り組めるような活動を行うことで、生徒の主体性を育成し、自己管理能力の向上を図る。 ・ヘルメット着用について生徒が主体的に考え、交通安全に対する意識向上を図る。 ・スクリーニングや日常の生徒観察等を充実させ、悩みを持った生徒を早期に把握し適切に指導するとともに、スクールカウンセラーと連携して組織的に対応する。	B	B	B	・身だしなみ指導について今年度より、生徒の身だしなみへの意識向上を図るため、生徒同士が身だしなみチェックを行うのを教員がサポートする形で行った。事前に学級委員・生活委員を中心にどのような身だしなみを意識するか考えチェックを行った。生徒・教員ともに身だしなみについて考える良い機会になり、双方が納得のいく身だしなみ指導であった。来年度以降も継続していきたい。 ・交通事故件数は19件（1月14日現在）で、昨年度の17件から増加傾向にある。 ・ヘルメットを着用していると答える生徒は85.5%であった。 ・悩み等の相談体制については、生徒の93.6%が肯定的に回答していた。 ・教育相談については日頃の見守り活動を徹底して行い、生徒には積極的に教員側から声をかけ話を聞くようにこころがけた。また、スクールカウンセラーのみでなく、特別支援アドバイザーにも協力していただき、生活に困難がある生徒への対応も丁寧に行っている。 ○学校の校則等の見直しを時代背景等も考え、生徒とともにやっていく。 ○自転車乗車時にヘルメットを着用することが、事故に遭遇した場合、自分の命を守ることにつながることを理解させ、ヘルメット着用の定着を図る。 ○必要に応じて外部機関との連携を密にしながら、引き続き悩みや生活に困難を持つ生徒への支援を行う。	○交通事故件数を減らすために生徒主体の啓発活動を行い、自分事と考えて行動してほしい。 ○ヘルメットの着用はほぼ良好と認めます。下校中の生徒について、警察官に注意されているところを見かけますが、一時停止違反。並列、スマホ使用と思われる。 ○移動の安全確保の徹底をお願いしたい。 ○生徒のストレス対策に、教員以外の相談機能を充実してほしい。 ○SNS等に関するいじめを本当になくせているのか、根拠が曖昧であると感じた。学校の取組・指導内容（情報の授業、講習会等）について明記した方がよい。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・SNS等に関するいじめや犯罪被害をなくす。 ・いじめの発生防止に努め、いじめの解消率を100%にする。	・伊高SNS利用宣言について各クラスで周知徹底し、生徒がICTの活用について主体的に考えることで、情報モラルの向上を図る。 ・いじめ悩みアンケートを年に3回実施し、いじめ防止と早期発見に努める。また、いじめ防止フォーラムの情報を学校全体で共有し、いじめについて生徒たちが主体的に考える場面を設定する。	A	A	A	・いじめ防止や早期発見に向けた学校の取組について、生徒の91.9%、保護者の94.1%が肯定的に回答している。 ・SNS等に関連した犯罪被害数は0件であったが、いじめに発展しそうなトラブルや問題行動が数件見うけられた。 ○日常的な生徒観察や保護者との連携により、いじめの未然防止及び早期発見に努め、迅速で組織的な取組を充実させる。 ○スマートフォンやSNSの使い方について生徒に考えさせ、思わぬかたちでトラブルにならないよう生徒の情報モラルを向上できる取組を行っていく。	○探究や部活動が坂になればなるほど、従前の画一的な学校管理体制ではまかなえないことが増えるのでは。管理体制をどのように整備しているのかを明記してほしい。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・部活動等の学校生活に主体的に取り組んでいる生徒の割合を80%以上にする。 ・「挨拶がきちんとできる」と回答する生徒を80%以上にする。	・部活動等を通して、心身の鍛錬や社会性の育成など人間力の向上を目指し、部活動の振興を図ることで、学校全体の活気につなげる。 ・ボランティア活動や探究活動への積極的な参加など、生徒の活動意欲を高める指導を継続し、生徒の主体性の向上につなげる。	A	A	A	・部活動加入率は85.9%(運動部46.8%、文化部39.0%)であった。以前より、運動部の割合が減少し、文化部の割合が増加している。 ・部活動について、生徒95.8%、保護者90.3%が肯定的に回答していた。 ・挨拶やマナーについて生徒96.6%、保護者93.5%が肯定的に回答していた。 ○これまで以上に部活動やSAH指定校としての活動を通して、心身の鍛錬や社会性・非認知能力の育成など人間力の向上を目指した取組を進め、校内諸活動の振興を図ることで学校全体の活気につなげたい。	○学習時間を目標とすると達成できない。学習の質の向上を考えた方がよいのではないか。 ○探究学習を重視するのであれば、偏差値一辺倒の指導だけではなく、生徒が進学等に対して目的意識を持ったキャリア教育を設計すべきだと考える。 ○進路実現＝学年＋1時間の学習時間、数値目標とそれに対する実行項目が適切なのか、疑問を感じた。
	8 計画的な指導を行っていますか。	・進路を意識して学習する生徒を60%以上にする（1年）。 ・具体的進路目標の定まった生徒を70%以上にする（2年）。 ・進路目標が定まり、学校からの進路情報が有意義であったと考える生徒を90%以上にする（3年）。	・進路講演会（保護者対象）、進路ガイダンス（生徒対象）、進路情報誌の配付等により、進路意識の高揚を図る。 ・「スタディサポート」「学びみらいPASS」等を活用して学力と進路意識向上を図り、進路希望の実現につなげる。	A	A	A	・生徒の進路目標達成に向けた取組については83.2%が肯定的に回答し、また、保護者は進路指導の取組に対し、94.6%が肯定的に回答した。昨年度よりやや増加した。引き続き生徒の進路希望実現に向けて、LHR等で計画的な指導をしていきたい。 ・1年生の家庭学習時間は70分程度だが、模試の成績は伸びている。2年生は80分を超え昨年より20分以上増加している。1年生の進路目標は95.1%の生徒が、2年生は95.2%が四年制大学を志望している。1・2年生ともに学習量・成績の伸長もできており、今後の結果に期待したい。 ○1年生で大学・企業見学、インターンシップを実施できた。今後も継続していきたい。 ○もっと高みを目指すような進路指導を実践し、より将来への職業観育成へつなげていきたい。	○学習時間を目標とすると達成できない。学習の質の向上を考えた方がよいのではないか。 ○探究学習を重視するのであれば、偏差値一辺倒の指導だけではなく、生徒が進学等に対して目的意識を持ったキャリア教育を設計すべきだと考える。 ○進路実現＝学年＋1時間の学習時間、数値目標とそれに対する実行項目が適切なのか、疑問を感じた。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・「学年＋1時間の学習時間」を確保しようとしたと回答する生徒を70%以上にする。		B	B	B	・「学年＋1時間」の学習時間を確保できた生徒は50.9%で学年の進行とともに高くなる。1年次では17.9%と低いため、入学後の学習習慣を確実に身に付けることで、その後の増加が見込めると考える。 ○「Classi」などを活用した学習意欲の向上については、1学年を中心に、模試との連動課題を実施したり、長期休業の課題に利用したりと活用の場が増えてきている。2年生では3学期にスタディサプリによる到達度テストを実施し、家庭学習につながる課題配信を行う予定となっている。 ○志望校調査などを見ると、群大志望一辺倒だった傾向が、徐々に旧帝大や東京方面の国立大学志望者が増え、意識が変わったと捉えられた。	○学習時間を目標とすると達成できない。学習の質の向上を考えた方がよいのではないか。 ○探究学習を重視するのであれば、偏差値一辺倒の指導だけではなく、生徒が進学等に対して目的意識を持ったキャリア教育を設計すべきだと考える。 ○進路実現＝学年＋1時間の学習時間、数値目標とそれに対する実行項目が適切なのか、疑問を感じた。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・HP等情報発信をよりタイムリーに更新できるようにする。 ・学校説明会、オープンスクールにおいては様々な発信方法を視野に入れつつ、来場者・閲覧者数を昨年度以上にする。	・様々な情報発信ツールの活用と内容の充実にも努める。 ・「伊高だより」等を定期的に発行し、保護者や地域、中学校等に学校の活動を伝え、それらをWebページ等でも公開する。	A	A	A	・「学年通信」とともにWebページ更新を積極的に行った。このような広報活動を保護者の94.7%が肯定的に評価した。 ・学校説明会、オープンスクールは予定通り実施し、生徒中心の運営・発表を行った。来場者は昨年以上であった。 ○国際理解教育、探究活動など本校の特色ある教育活動を中心に、Webページ・インスタグラム等のインターネットツールによる情報発信を継続しながら、学校の教育活動を保護者、地域、中学校等に対しての積極的な広報活動を行っていきたい。	○新聞の掲載も多く、学校の様子・取組が周知されており、地域からの理解も得られている。 ○HPやインスタグラムなど定期的に更新されており、情報発信に努めている。
	Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。 12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	・日常的に学習用端末を活用する職員を80%以上にする。 ・授業以外の業務でICTを活用できる職員を80%以上にする。	A	A	A	・教員の87.9%が、日頃からICTを活用した学習指導（授業以外の業務も服務）を行うと回答した。 ○生徒の学力向上に向けて、一人一台の学習用端末のより有効な活用方法を検討する。 ○授業等で多数の先生がICT機器を有効活用できているが、さらに有効的に活用できるよう情報提供に努めていく。 ○教職員のICT活用は概ね浸透したが、今後もペーパーレス、業務改善を積極的に行っていく。	○評価に値すると考える。
Ⅶ 積極的な国際交流と実用的な英語教育に取り組み、国際社会に通用する資質を身に付けさせるよう努めていますか。	13 グローバル人材の育成に向けて、実践的コミュニケーション能力の育成推進を図っていますか。	・年3回、県立女子大との連携を行う。 ・英検2級以上の合格率を普通科20%以上、グローバルコミュニケーション科50%以上にする。	・県立女子大外国語教育研究所の研究員によるコミュニケーションを重視した学習の実践を通して、高大連携の強化を図る。 ・英検などの資格試験の受験を推奨し、自己目標を設定させ、英語学習の意欲を喚起する。	A	—	A	・県立女子大学との連携事業については年3回実施した。この中で、活動内容を改善してディスカッションと発表に重点を置き、生徒の英語力向上に努めた。 ・英語4技能をバランスよく伸ばす指導に努めながら、英検取得に向けた指導体制の強化を図った。 ○県立女子大学との連携授業は、複数のネイティブの先生から直に英語で指導を受けた。時事問題について英語で討議するよい機会にもなるので今後も継続したい。 ○実用英検を全員受験にしたことで、資格取得率が上がり、英語学習へのモチベーションも向上することが見込まれるので今後も、英語4技能をバランスよく伸ばす指導に努めながら、学校全体で英検取得に向けた指導体制の強化を図る。	○外部連携を積極的に推進してくれたことで、生徒の経験値が上がり、英語への関心だけでなく、意欲向上にもつながっている。 ○英検の推奨により、目的意識を持って英語学習にのぞめている。
	14 国際理解教育の充実を図っていますか。	・グローバルコミュニケーション科の英語学習プログラムについて、満足している生徒を80%以上にする。 ・異文化に興味を持つ、グローバルコミュニケーション科生徒を90%以上にする。	・英語学習プログラムの実践や国内や海外の英語研修（派遣・受入）のプログラムを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力の向上を図ると共に異文化理解を深める。あわせて、オンラインでの国際交流も模索する。	A	A	A	・GC科の英語学習プログラムについて、95.1%の生徒が満足していると回答した。 ・GC科生徒の100%が異文化に興味があると回答した。 ○GC科生徒の英語学習プログラムへの関心が高まりたいことから、学習プログラムを改善し更に充実させる。必要に応じて外部機関と連携し、欧米だけではなくアジア諸国等にも目を向け、生徒の異文化に対する理解深化を図る。 ○OECD生徒教師サミット（パリ）にGC科生徒を中心に参加し、世界に目を向ける貴重な機会を得た。意見交換で得たものを学校生活に取り入れていきたい。	